

## 知識と業務を体系的に結びつける

～日外協「海外安全・危機管理認定試験」を受験



帯同家族向けの研修で

日本ガイシ株式会社  
人事部 人事グループ

マネージャー **小久江 晋**  
*Susumu Kogue*

### 危機管理のイロハから学ぶ

入社以来5年間の海外駐在を含め20年近く海外営業を担当してきた自分が、人事部に異動してから約4年が経過した。当社は17カ国27カ所の海外拠点に駐在員約200人と帯同家族約250人がおり、日本からの海外出張が年間延べ約3000件ある。海外安全管理を担当した当初は、いつ何時トラブルに巻き込まれるかもしれない、という漠然とした不安にかられたことを覚えている。まずは前任者がこれまでに構築した赴任者向け研修、海外赴任者や出張者への安全速報の配信と注意喚起、海外拠点のセキュリティチェック、海外救急医療サービスなどの業務を引き継いだ。当社は海外安全に関しリスクコンサルタントを起用しているが、初心者の私は危機管理のイロハから教わり、とりわけ危機の発生を未然に防ぐ対策としての研修の役割と重要性を最初に学んだ。4年前からは海外出張者向けの研修を、2年前からは拠点長向けと海外に帯同する家族向けの研修を導入。これまで生命の危機にひんする事態との遭遇や事案への巻き込まれには至っておらず、今後もリスク未然防止のための研修には力を入れていきたいと考えている。

危機管理のステージにはこれらの予防対策のほか、危機発生時に備えた事前の準備、実際の事案発生時の対応、事後対応があるが、それらの経験を積むには時間がかかるため、日外協の中部地区・海外安全グループ研究会や社外の講習会に参加して知識を習得し、業務に活用してきた。ただし、それらを体系的にどう結びつければいいのか、幅広い業務のどこまでを網羅すべきなのか、どこかで確認したいと思っていた。

### 2つの認定試験にチャレンジ

そんな中で他社の危機管理担当者との名刺交換をさせていただいた際に、日外協で認定試験を実施していることを知り、一昨年に海外安全・危機管理者コースを（以後管理者コース）、昨年に海外安全・危機管理責任者コース（以後責任者コース）を受講（受験）した。

管理者コースは講義とテストの1日のみ。使用されるテキストは事象別に内容と対策が記述されていて、日々の業務において教科書として活用できる。なお当日のテストに備え、各自が予習してくることを求められる。受講日当日は実際に海外安全管理業務を企業で担当されている方が講師となり、海外リスクマネジメントの概論と事態別対応事例の講義を経て筆記試験が